

令和6年度葛川少年自然の家運営協議会会議結果

議事・意見交流

【議案第1号 令和5年度事業報告】

（委員） 杉が多いという葛川の特性を生かしたアロマオイルの取り組みが葛川少年自然の家で実施できているのがよい。以前は積雪量も多く、スノーバトルを地域の伝統的な取り組みとして行えていたが、雪不足により実施が難しくなっているのは残念。葛川だからこそできる体験があるといい。

（事務局） 地域の良さを活かした活動を実施していきたい。今年度の雪の状態はまだわからないが、雪が少なくても実施できるプログラムを開発する必要がある。

（委員） 施設の修繕箇所について、現段階では全体の何パーセントの修繕が完了しているのか。

（事務局） まだ全体が見えていないため、現時点で何パーセントというのはわからない状態である。年々修繕箇所が増えているため、今後もさらに修繕箇所が増えていくと考えられる。予算の確保が必要である。予算が限られているため、優先度を考慮して修繕していく。

（委員） 主催事業のリピーターは何割いるのか。広報活動はどのように行っているのか。

（事務局） リピーターが何割という計算はしていないが、以前にも応募していただいたお名前を見ることが多く、複数回にわたって参加を希望してくださるご家族はたくさんある。広報については、大体は広報おおつか、学校に送付しているポスターを見て参加を希望するご家族が多い。児童館・コミュニティセンターへのポスターの送付もしている。応募家族数が多くなりすぎると、何度応募しても落選してしまう参加できないという家族が出てきてしまう。

（委員） 応募者数が少なければ広報の手段を考える必要があるが、現状十分な応募者数が集まっているのであればこのままでも問題ない。若いご家族には、ホームページよりもインスタグラム等のSNSの利用が効果的である。また、家族間同士の口コミの効果も高いと考えられる。

以上を議論し、拍手によって承認を得る。

【議案第2号 令和6年度運営方針】

（委員） プログラムの開発について提案。①大自然を生かして逃走中。高校生や大学生が子どもを追いかけると面白いのではないかと。②デッサン教室。③サウンドスケープ。音を活かして風景を記録し、それを発表して意見交換をする。大学と連携して活動ができるといいが、交通手段がないため難しい。交通手段の確保ができれば今後活動に幅が出るのではないかと。登山のプログラムは復活していないのか。

（事務局） 成安造形大学とは現在連絡をとっており、今後連携して活動できるように話を進めている。登山のプログラムは、今年度は実施していない。

（委員） 和式トイレを使える子どもが減っているため、トイレの洋式化は早いほうがいい。アレルギーの対応について、以前、養護教諭の集まりで「アレルギー対応のマニュアルを事前に見られるといい」という意見が出ていた。現状はどのようにアレルギー対応をしているのか。ベテランの養護教諭もいれ

ば、若い養護教諭もいるため、一律のアレルギー対応ができるようになればいい。

(事務局) アレルギー対応が必要な子どもは個別に書類を提出していただき、それをもとに対応している。

(委員) 布団のカビのにおいが気になる。食事の味がもう少し改善されるといい。

(事務局) 布団は年に2回消毒・乾燥しているが、時期によってはにおいが出てくこともある。

食事は昨年度からメニューが変わっており、学校からの評価が上がっている。

(委員) 残食量はどれくらいか。

(事務局) 学校にもよるが、中学校はほとんど食べている。

(委員) 子ども同士の交流が減っているなか、葛川少年自然の家という自然体験ができる場所は非常に貴重である。ただ、修繕箇所や改善できるところもあるため、少しずつでも進めていけるように要望していけるといい。

(委員) キャンプカウンセラーは何人いるのか。また、どこに住んでいるのか。

(事務局) 人数は17人。場所は様々である。滋賀に住んでいる学生もいるが、遠方に住んでいてなかなか連絡をとるのが難しい学生もいる。

(委員) 葛川少年自然の家に引率で来ると直接指導が必要になるため、不安や心配事があるのではないかと。初任者研修だけではなく、2年目以上の教員も対象の研修もあるといいのではないかと。また、怪我や事故防止のために野外炊事場所・設備の確保を進めていけるとよい。

(事務局) かまどの改善や火を扱う活動のマニュアルの見直しを進めていきたい。

以上を議論し、拍手によって承認を得る。